優秀賞

多様な社会参加で『つながり』を取り戻す地域づくり ～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会

取組をはじめたきっかけは何ですか？

足利市では、高齢化率が33%を超え、市内では46%を超える地区もあります。

また、地域の商店やスーパーの閉店、バス路線の廃止、免許証返納等の理由で、買い物や通院等の外出が困難になる人も増えつつあります。そのようなことから令和3年度より「買い物・移動支援」に関する取り組み始めました。「買い物マルシェ」はその取り組みの一つです。

当初は買い物に困っている人が遠出をしなくても、自宅近くで簡単な買い物ができる場所の提供が主な目的でしたが、長く続くコロナ禍で多くの地域活動が中止となり、自粛生活が長期化しその結果「フレイル」の進行がみられるようになりました。

そのような背景の中で始めた「買い物マルシェ」は、感染リスクが軽減する屋外で、久しぶりに地域の人が再会する、気がつけばいろいろな人が集まる地域の居場所を提供する事業に変化してきました。

どんな取組を行っていますか？

当日マルシェを運営する地域の団体（サロン、自治会、老人クラブ等）が、開催日時、概ね10名以上が集まれて三密を避けることのできる場所を決めて市社協に申請をします。その後、マルシェに出店していただく店舗（主にキッチンカーや移動販売）を市社協が調整します（2～3店舗）。広報（周知）や当日の運営は申請団体が行います。

取組を行う際のポイント

地域住民主体の「買い物・移動支援」と聞くと地域の皆さんは、車がない、運転手がいない、事故が起きたらどうする等となかなか最初の一歩を踏み出すことが難しいように感じました。ならば、身近な場所にマーケットを開けばいいのでは？という視点で取り組みを始めました。

地域で顔の見える関係を作れるようできるだけ開催地域のお店に出店していただけるよう調整しています。

これからの活動について

私たちの日常は新たなフェーズへ移り、この「買い物マルシェ」も新たなフェーズへ移行していく時期に来ていると感じます。地域の人が集える「居場所」に、ちょっとした困りごとを相談できる人がいたり手助けできる人がいたりする地域の場になっていければと思います。また、当初目指した「買い物に困る人を支援できる」場所にもしていきたいと思います。

コロナ禍で失われつつある人との「つながり」や希

薄化する地域住民の「つながり」をこの「買い物マルシェ」が「地域の和」としてつむぐ、そこに福祉の枠を超えて多様な人が集い、「つながり」を育むみんなの居場所を作りたいと思います。それこそが地域共生社会づくりであると考えます。

チラシ・のぼり

移動図書館「ともしび号」
絵本のよみきかせの様子

～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～

◆場　　所　足利市内における三密を避けることのできる屋外の場所

◆実施団体　地域での活動実績がある団体
地区社協の支部(自治会)、高齢者サロン、老人クラブ、協議体等

◆開催方法　開催日時・場所を決めて市社協に申請後、市社協が出店店舗を調整

◆広報・運営　申請団体が行う

◆料　　金　無料
(経費が必要な場合には3,000円を上限として助成)

※ハートショップ(足利市自立支援協議会就労部会)に必ず1事業所出店していただく

『おせっかいにならないよう、高齢者の気持ちに寄り添いながら日常生活をそっと支える』オンリーワンなまちづくり

足利市においても、店舗の閉店や公共交通の弱体化などにより、日常の買い物機会が十分でないいわゆる「買物弱者」の問題は大きな地域課題となっています。

このような課題に対して、社協として何か支援できないかと、令和3年度から「買い物・外出支援」に取り組みました。その中の一つ「買い物マルシェ」については、参加した方から大変好評をいただいています。今後もさらに創意工夫をし、発展するよう取り組んでまいりたいと思います。

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会　会長　岩田　昭

団体名 ｜ **社会福祉法人 足利市社会福祉協議会**
所在地 ｜ 足利市東砂原後町1072番地
足利市総合福祉センター内
代　表 ｜ 会長　岩田　昭
事業内容 ｜ 買い物・移動支援事業

評価のポイント

当初、買い物支援からスタートし、フレイル予防もねらい、さらに福祉の枠を越えて多様な人が集い、つながりを育む地域の居場所を提供する事業へと発展しています。高齢者にとどまらず、子育て世代向けの移動図書館の取組など、事業を「世代間交流の場」として発展させながら取り組んでいることも、高く評価されました。